

平成27年度 環境保全活動報告書



KSK 湖国精工株式会社

<http://www.kokokuseiko.co.jp>

環境保全の歩みと取組み

(環境方針)

1. 地球環境にやさしい事業活動をする
2. 全従業員が力を合わせて、環境に配慮し、人と地球の共生をはかる
3. 環境関連法規制を遵守する
4. 環境マネジメントシステムの継続的改善に努める
5. 環境汚染の未然防止と環境負荷の低減に努める

環境保全の歩みと取組み

平成13年2月26日、大津市と[環境保全協定書]を締結する。

(目的)

次の世代により良い環境を引き継いでいくために、大津市・市民・事業者がそれぞれの役割と責任を認識し、快適で環境への負荷の少ない持続可能な街づくりに、自主的・主体的に行動するとともに協働して取組むことが求められている。

(活動の推進)

事業者は実施可能な範囲で自主的・主体的に環境保全に係る目標等を設けて環境への負荷の低減、資源の循環及びエネルギーの効率化、その他環境保全に係る活動を実施するものとする。

(環境管理体制の整備・充実)

環境保全活動を継続して推進するため、必要な組織を整備し、環境保全に関する方針及び目標を定め、その実施状況を点検しなければならない。

また、環境管理体制はISO14001に沿ったマネジメントシステムの構築また、市の定める手引きに従う整備により行うものとする。

(報告)

環境保全活動の実施状況について取りまとめ、原則として毎年1回、市に報告する。
昨年に引き続き、平成26年度の報告を致します。

主な環境取組テーマ

地球温暖化の防止

廃棄物の削減

琵琶湖の汚染防止

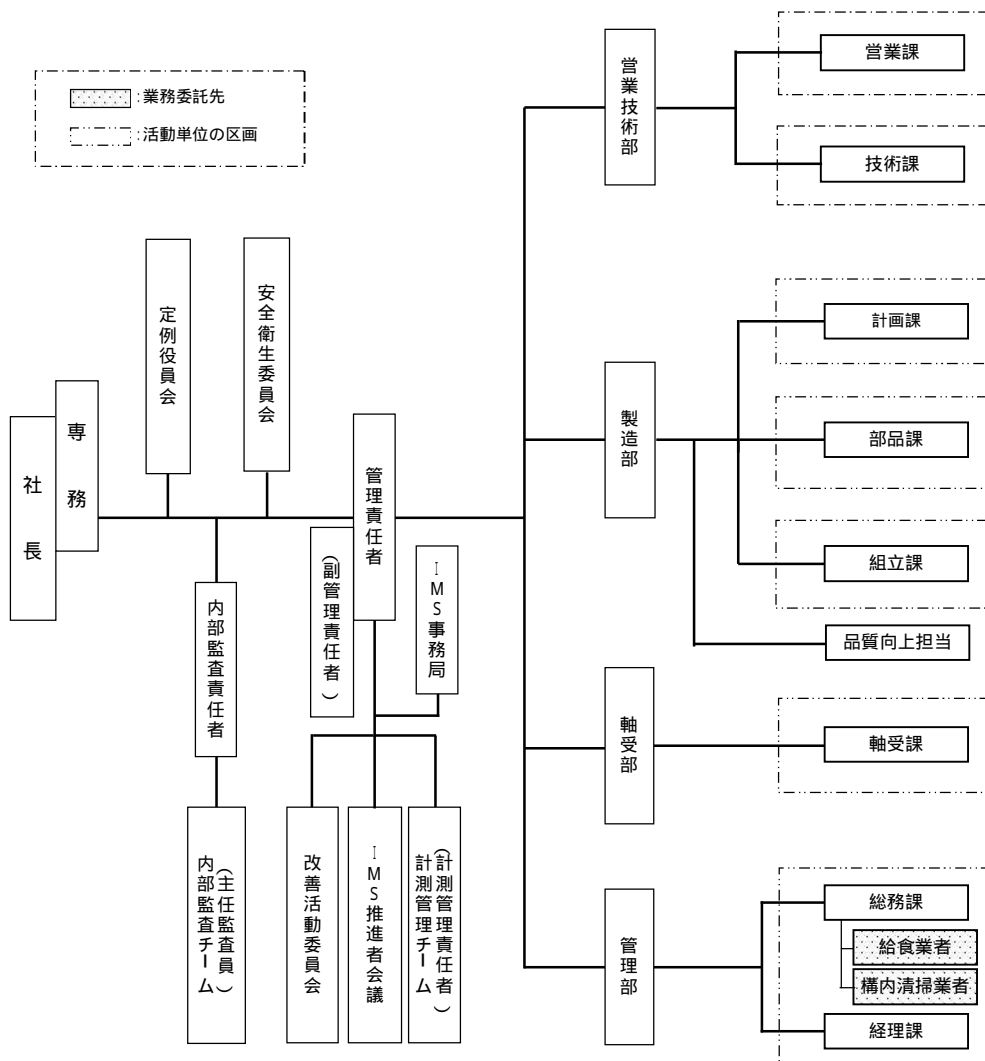
環境に関する地域社会への貢献

その他の取組み

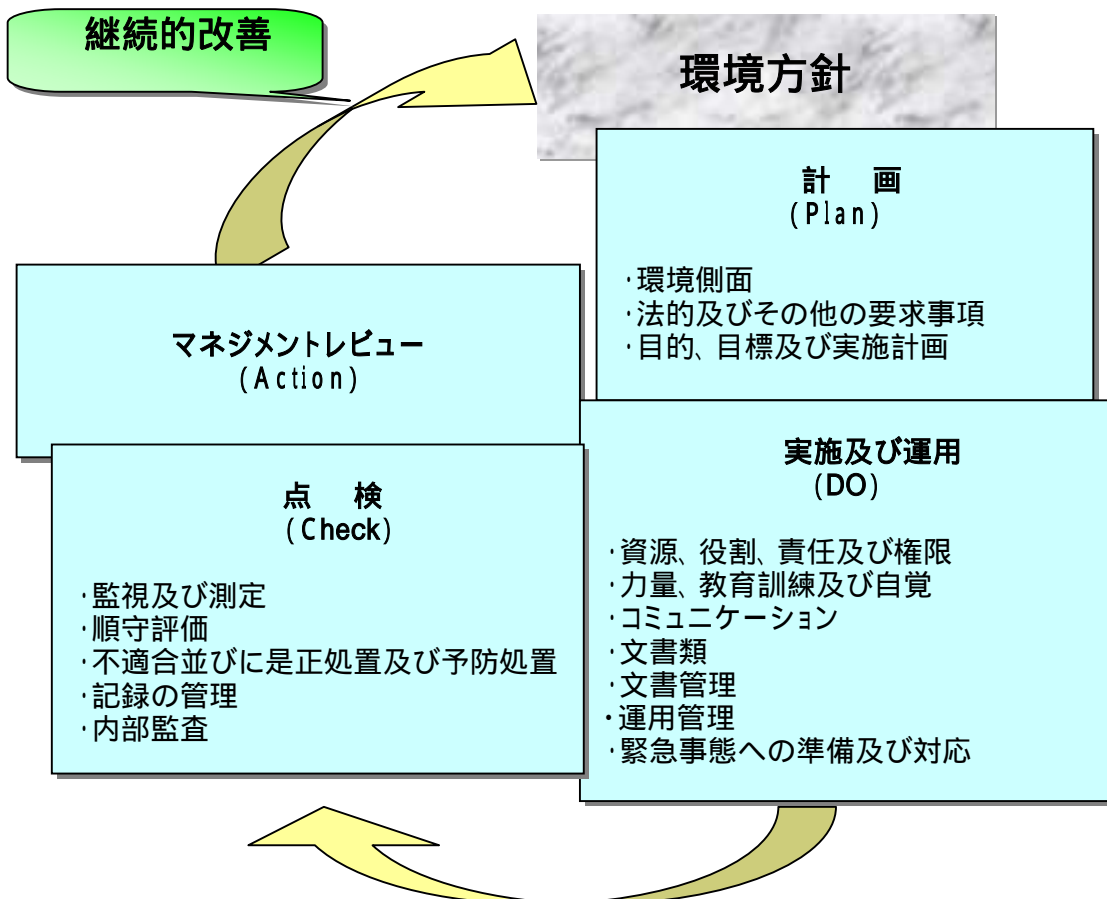
環境管理組織体系図

【附属書】 複合マネジメントシステム
組織体系図 (ANX-KIM420-04)

最終改訂日 2015/4/1



～ P・D・C・A サイクルによる、継続的改善の管理システム ～



P-D-C-Aのサイクルで構成されているシステムで、このシステムを運用することにより継続的改善を目指す。

汚染の予防と環境関連法規制の遵守が要求されており、これに対するシステム構築と運用を行なう。

環境方針及び目的・目標を定め、体系的な改善を行うために環境影響の原因である環境側面を抽出し、これの管理・改善を行う。環境影響を出してから対策するのではなく、発生源の管理・改善を目指している。

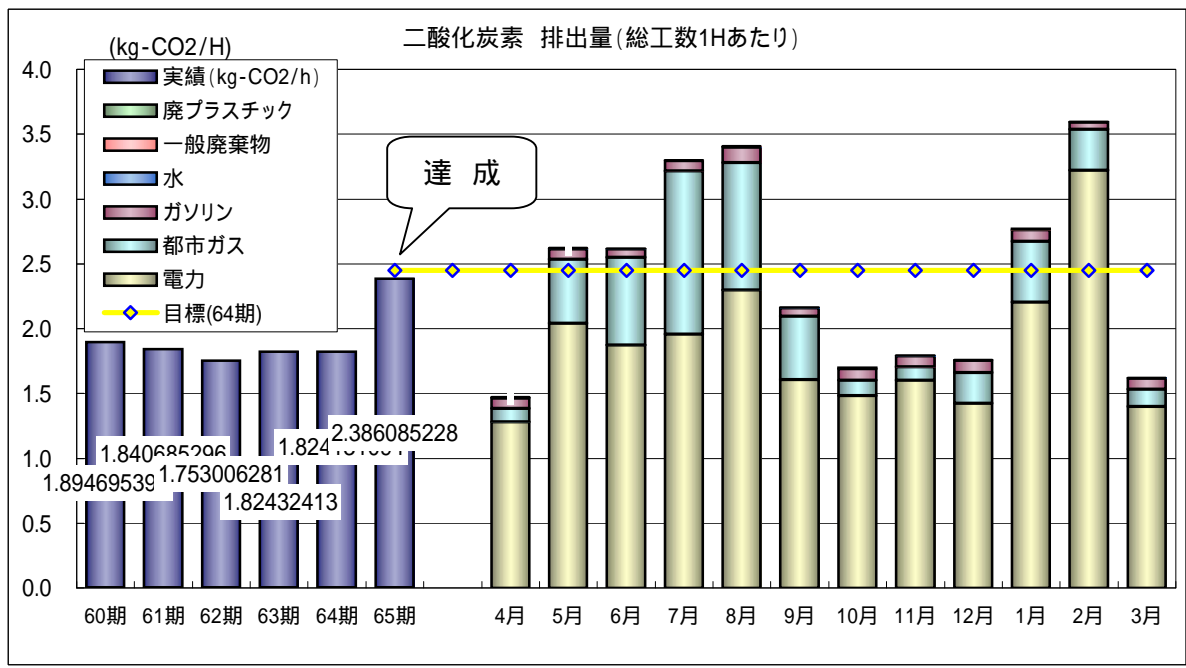
環境影響の著しいものを取上げ、重点的に管理・改善を行う。

あらゆる組織に適用できるシステムで、システム導入は組織の自主的な活動により行なわれ、トップの方針に基づき、全員参加で環境負荷を低減するシステムである。

環境目的・目標 実施計画

品質・環境方針	著しい環境側面	監視項目及び管理項目			
		項目名	管 監 理 視 ：	単 位	
地球温暖化の防止	エネルギーの使用 資源の使用	二酸化炭素排出量		総排出量(t-CO2/年) 原単位排出量(kg-CO2/総工数)	
		電力の使用	電力量	総使用量(kWh/年) 原単位使用量(kWh/総工数)	
		都市ガスの使用	都市ガス使用量	総使用量(m ³ /年) 原単位使用量(m ³ /総工数)	
		ガソリンの使用	ガソリン使用量	総使用量(L/年) 原単位使用量(cc/総工数)	
		コピー用紙の使用	コピー用紙購入量	総購入量(Kg/年) 原単位購入量(Kg/売上高:百万円)	
		有機溶剤の使用	有機溶剤の購入量	総購入量(Kg/年) 原単位購入量(Kg/売上高:百万円)	
		電線の使用	電線の購入量	総購入量(Kg/年) 原単位購入量(Kg/売上高:百万円)	
		廃棄物の削減	一般廃棄物排出量(1)		総排出量(t/年)
		金属クズの排出	金属クズ排出量(有価物)		総排出量(t/年) 原単位排出量(Kg/購入量Kg)
		産業廃棄物の排出	産業廃棄物排出量		総排出量(t/年) 原単位排出量(Kg/売上高:百万円)
廃油の排出	廃油の排出量		総排出量(t/年) 原単位排出量(Kg/加工高:百万円)		
金属クズの排出(間接影響)	リユース製品の受注額		受注金額(百万円/年)		

前年に比べ、受注量は大きく回復が進んだが、従来の100%を超えることはない。
国内向け自動車が伸びない中、海外での設備・部品現地調達に対応していく又は競争する
という傾向が益々強くなり、当社においても他人事ではない。
横ばい受注の中、納期の山谷の激しさは変わらず、再度の電力料値上げは大きな圧迫である。
企業として一層の改善・コストダウンは至上命題であるが、基本は労働集約型からの脱却が将来的な
低減の基礎となる。



* 64期基準の3ヶ年計画

〔二酸化炭素排出量の推移〕

今年度は更に稼働時間の繁閑差が激しく、且つ小ロット対応を旨としているため、ロス時間も増えた。

目標	2.448 kg-CO2/H
実績	2.386 kg-CO2/H

原単位では目標をクリアすることができた



1) 電力の使用量

前年に引き続き、節電を継続。
 平成26年度 813,215 kwh
 平成27年度 698,865 kwh
 一層の省エネ・電力料金を吸収するために
 蛍光灯のLED化を一層推進し、翌年度まで
 切替推進計画をしている。
 デマンド値も切下傾向で推移中である。

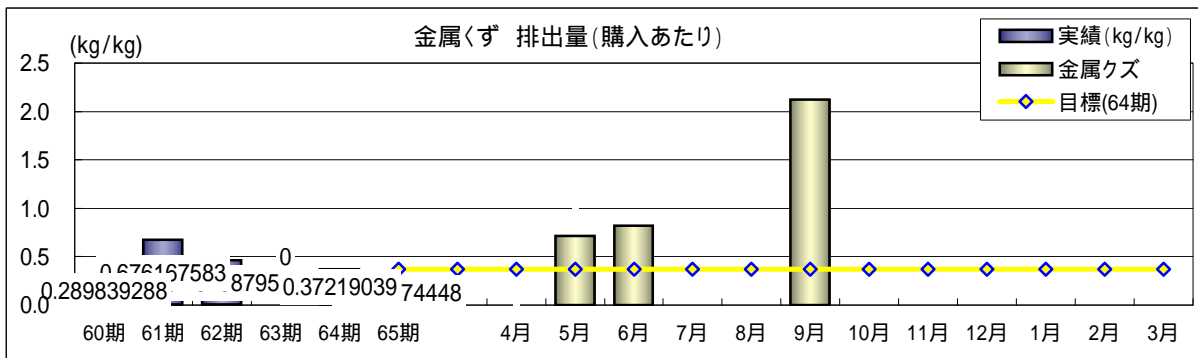
*発電量(4月～3月) 51,103kwh

2) 都市ガスの使用量

既にガス空調を導入しており、節電と併せて
 省エネを進めている。空調起動時間の分散化
 やフィルター清掃の強化など日常できることの
 積上げを継続している。
 目標: 53,360m³
 実績: 44,826m³ と気候変化と稼働時間の影響大

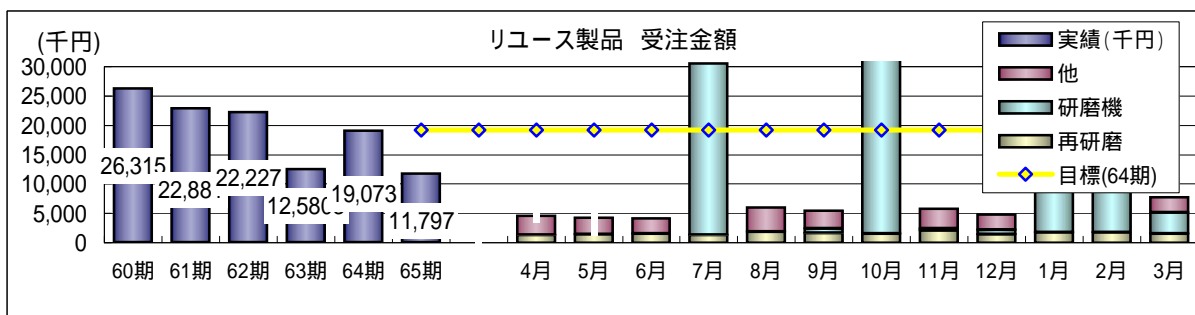
3) コピー用紙の購入量

裏紙使用・両面印刷・FAXの電子受信・
 社内配布資料削減・ISO文書の電子化など
 日常業務でのムダ削減を継続しながら
 エクセルからシステム入力を推進中。
 設計図面の電子化の推進も進んできた。
 目標 0.695 kg/百万円/年
 実績 0.522 kg/百万円/年



4) 金属クズの排出量・廃油の排出量

排出そのものを減じるために在庫・調達管理の徹底・不良削減等に取り組んでいる。引き続き受注量は回復傾向であるが、資材の調達量が伸び苦しい原単位となった。ゼロエミ推進と法令改正とを鑑み、蛍光灯や無機汚泥などの処分方法を切替え準備を進めた。



5) リユース製品の受注

客先で使用されている専用機をオーバーホールすることや消耗工具類を再研磨することで、新規製作に係る部品や材料などを抑えることができ、技術を活かしながら環境負荷低減に貢献できる。実行ベースにおいては受注案件はあるものの、お客様の動向に連動するため受注確定が思いのほか進まなかった。

琵琶湖の汚染防止	→	放流水の水質	水質検査	合格	合格
----------	---	--------	------	----	----

6) 上下水道の水質

一級河川「盛越川」へ隣接しているため、水質の定期監視を自主的に継続している。年に1度測定を実施し、大津市基準24項目基準で異常なし

又、一級河川に隣接し、琵琶湖へ直結していることから特に新入者を重点に油の保管場所や零したときの想定をして訓練をしています。



7) 地域活動

隣接する盛越川の清掃を、5月11日、7月3日、10月2日に実施。

地域・JR隣接する駐車場の清掃



8) セル活動

目の前にある・できることは・キッチリと改善実行しようと、長いスパンのQC活動から1ヶ月単位の改善スピードを上げて取り組んでいる。現在11セル(チーム)が活動中で、あらゆる改善ネタに取り組んでもよい。今期は特に女性の活躍が目立つ。

9) 提案活動

各個人ごとに毎月提出するもので、それぞれができる改善をとおして効率UPやモチベーションUPなどにも通じ継続的に続けている。

計画	108.6 件/月	
実績	136.3 件/月	(4-3月)

* ISO認証状況 *

平成27年度における環境活動について審査を受け、継続認証(6月)

* ゼロエミ推進の継続 平成27年度実績 98.2%

-- 次年度の計画 --

* 平成28年6月

複合更新審査を受審・・・平成27年度実績・・・規格改訂対応

* 内部監査員の更なる養成

若年層への切替え推進

* 蛍光灯埋立て禁止に伴い、リサイクル工場へ切替